

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2091300018		
法人名	有限会社フィオーレ福祉会		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	長野県飯山市大字飯山193番地		
自己評価作成日	平成26年7月10日	評価結果市町村受理日	平成27年1月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成26年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居された方々にとってここが終の棲家として、どのような状態になられても安心して生活していただけるように、かかりつけ医、協力病院、訪問看護ステーションとの連携の下、終末期・看取り介護ができる環境を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年、管理者が変更となった、「グループホームすずらん」独自の理念が職員全員の意見を反映し作成された。職員の思いが共有できたことで利用者の思いに沿った支援を共有しサービスの向上に努めている様子がうかがえた。重度化しても、離床時間を作り、屋外に出かける支援を体調に合わせて行うことができるようになり、利用者が何を考えどのような生活を送りたいかを日々チームで検討し、介護計画に反映している。モニタリングも定期的に行い、現状に即した介護計画、介護に当たり職員の意欲的、明るい雰囲気で見守られている雰囲気が見られた。リーダーも責任感を持ち利用者とともに職員が向上していく様子が垣間見られた。利用者の表情、発する言葉からより気持ちに寄り添った生活支援のさらなる向上、技術向上に期待したい。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(東)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
ユニット名(西)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすいところに掲示し、職員全員で共有し意義を理解しケアの実践に繋げている。	今年度、理念の見直しがなされた。法人の理念に加え、「すずらん」独自の理念の検討が行われ職員が皆の思いを掲げる取り組みを行った。「一人ひとりの個性を大切に生き生きと毎日を送れる支援、地域と家族に絆、ふれあいを大切にした支援」という皆が共通な意識を持っていることを確認し理念の共有を図った。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物や会合・消防訓練等に参加し地域との交流を深めている。また、ボランティアの方々に来所していただく回数も増えている。学校からの職場体験やボランティアの受け入れを通じ地域の一員として日常的に交流している。	隣組の加入もして隣組の一員として回覧版も回ってくる。地域の回覧を見て催しの参加や会議に出かけることで地域のつながりもでき、ボランティアもたくさん継続してきてくださる。毎日散歩に出かけ、地域交流の場もあり。近隣から野菜のおすそ分けなどもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験の受け入れや施設見学を通じ、認知症についての理解を深めていただけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営会議を開催し、状況を報告し意見を頂きサービスの向上に繋げるようにしている。	運営推進会議は2カ月ごとに行われている。会議には区長や民生委員等も来てくださり地域の情報を頂くよい機会となっている。また飯山市独自の花火大会にも経管の人も含め出かけた。事業報告や出席者からの意見も聞かれ、事業所を理解していただくよい機会になっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センター・介護保険係の方に出席していただいております。密に連絡を取り入居者の安全・サービスの向上に向け、指導・助言を頂き協力関係を築くよう取り組んでいる。また、ケアマネが地域ケア会議・研修会へ積極的に参加している。	地域包括支援センター、介護保険課との連携も取れ利用者や事業所の方針などの相談も行っている。また、市が主催するケアマネジャーの会議にも出席し理解に努め研修会も毎月行われ、職員も積極的に参加している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に見守り・所在確認を行い、その時々々の状況を細かく把握することにより、安全に配慮しながら鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。また、身体拘束についての勉強会を開催し職員全員が理解するよう努めている。	事業所の玄関は施錠などもなく、利用者が自由に外を眺め中に入ったり、笑顔で外出に行く。身体拘束の弊害は十分理解され、スピーチロックにも十分注意し気づかず発する言葉もその都度気づきにつなげている。毎年、すべての職員が再確認、理解をするために研修会を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての講演会への参加、施設内での勉強会を開催し知識を身につけ、ミーティングの際には再確認を行い職員一人ひとりが注意を払い防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在「成年後見制度」を利用している方がいらっしゃる。制度についての勉強会を実施し、職員は知識・理解を深め必要に応じ活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際は家族の要望・不安な点を伺い、様々な状況への対応・対処・起こりうるリスク等説明し同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置、ご家族からの要望・意見を柔軟に受け止め、職員はご家族へ施設での様子を手紙にて伝え、運営会議などを通じ公表しアドバイスを頂いたり運営に反映させている。	玄関入口に意見箱の設置がなされている。利用者は自分の思いを伝えることができる人がほとんどであり、声を傾けられる体制作りの構築に努めた。家族が面会に見えるときに担当職員がしっかり話を聞く体制を作り、家族会、運営推進会議などでも意見を言っていた場を作っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や毎日のミーティングの中で職員が気軽に意見・提案を出せる時間・場を設け、話し合い確認し、その出された意見や提案を参考にしながら心地よい環境・良いケアに反映させている。	職員会が毎月開かれ、すべての職員が意見を言える環境に努めている。事業所独自の理念作成時に皆が感じているケアの方向が確認できたことで運営、サービスの方針が改めて確認できチームケアが十分発揮できるよい機会になった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務内容・任用等の条件・賃金体系を確立し、職員が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での勉強会・外部研修への参加や介護福祉士資格・介護支援専門員資格取得の機会を確保し働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や講演会に参加したり、他の施設の見学を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、心身の状態を把握し、本人が困っていること・不安・要望に耳を傾け思いを受容し安心が確保できる関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯を時間をかけてお聞きし、ご家族の状況を理解し思いを受け止め、信頼関係を築くことの大切さを日々感じながら支援に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況を確認し、必要としている支援を見極め適切なサービスに繋げる等、状況の改善に向けた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識ではなく、共に笑い感動し、思いを受け止めお互いが協働しながら穏やかに暮らせるよう支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の考え、思いを共有しながら家族と一緒に本人を支えていける体制を整えている。一ヶ月の様子を手紙でお伝えしており、電話や面会時に情報交換をし、本人を支えるための協力関係を築くよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方の来所により今までの関係が途切れることの無いよう定期的に連絡をし支援している。自宅に帰りたいとの訴えが聞かれた際は家にお連れし、本人の気持ち・思い出の場所・人と人との関係が途切れないよう常に気を配り支援に努めている。	独居、老老介護世帯が多く、近隣の人が訪ねてくださる。遠くに住む家族にも途切れの無い支援が継続できるように毎月、利用者の様子を報告し身体の変化の理解に努めている。帰宅願望のある利用者も自宅に行くことで落ち着き、家族が事業所で髪を切るなどする方もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他のご利用者様との関係を観察し、関わり合いを大切にし、軽作業やレクリエーションを通じ、孤立しないよう寄り添い合えるような見守り支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても互いの関係を大切にし、情報提供や相談、支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当チームを置くことにより、ご利用者様の思いや希望、その人らしい生活、どのようにしたら安心して暮らしていただくことができるのか、行動・表情・生活暦などからその人を理解し受け止め日々の呟きにも耳を傾け意向の把握に努めている。	担当制の見直しを行い、利用者の思い、希望、意向、どのように過ごしたいのか、何をしてほしいのか、センター方式の利用を含め利用者の理解に努めている。トイレで排便ができたことでスッキリとしたうれしそうなお表情を見逃さず介護計画の目標に取り組むなど個別の検討に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴・会話・行動・なじみの暮らし方・家族からの情報を基に、これまでのサービス経過を踏まえ、安心した生活が営めるよう生活環境の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの尊厳を大切に、心身の状態を観察し、その人の出来ることや得意なことを見つけ、その人らしい生活を送ることが出来るよう環境への配慮・現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で思いを受け止め、家族との連絡、カンファレンス等で意見アイデアを出し合い情報を共有し、観察を行い現状に即した介護計画を作成し、定期的なモニタリングを行っている。	介護計画は定期的に3カ月ごとに行っている。毎月担当職員を中心にモニタリングを行いチームで共有し介護の視点の確認をしたり、家族の意見は来所時に話し合いを行うなど介護計画の作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別介護記録や職員連絡ノートに記入し、また、朝の申し送りの際に再確認を行い、職員間での情報を共有しながら実践。それを基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々場面・ニーズに対し、家族やかかりつけ医と相談しながら柔軟に対応し支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々にボランティアに訪訪していただいたり、神社・公園・花の名所等への外出等、心身の状況に応じて安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人のかかりつけ医との連携、家族との相談・希望等を大切に早期対応。緊急時には訪問看護や協力医の往診。また、家族が定期的に受診に連れて行き適切に診療を受けることが出来ており、安心安全が保たれている。</p>	<p>入居前からの主治医の継続の方も多く、受診時は家族が付き添うが職員も同行し受診の支援を行っている。協力医の往診による医療、訪問看護との提携により体調管理なども行われ家族の思い希望を受け止めた支援ができています。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職は日常の関わりの中での気付き・異常の早期発見に努め、ケース記録・連絡ノートを活用し、介護職から看護職へ細かな情報も確實・迅速に伝わる体制が整えられている。また、訪問看護による定期的な観察と緊急時の対応により適切な看護が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために、入院時には医療機関への情報提供を行い、また、家族とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に対する対応指針を定め説明している。状態の変化に対しては早期に家族と終末期の在り方について話し合い、重度化した際はかかりつけ医とも連絡を取り合い家族の意向に応じて方針を明確にし、終末期をどこで迎えるかを都度確認し情報を共有し支援にあたっている。</p>	<p>終末期の指針も作成されている。家族の思いは早い段階から確認しその都度聞き取るようにしているが重度化した時には家族の揺れる思いを最大限受け止め、訪問看護、医師家族と意向確認を行い方針を決めていく。チームで共有し常に家族の思いを確認しながら支援体制が作られている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故に備え、応急手当・初期対応の訓練を定期的に行っており、事故が無いよう見守り、介護支援に努めている。緊急時の対応マニュアルが作成され掲示。連絡網は各自に配布されている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には地区民生委員にも参加していたが、全職員参加にて実施し緊急時の対応を身につけ、地域との協力体制を整えている。	毎年、春、秋に防災訓練が行われている。夜間想定をした避難訓練も行い防火訓練実践も行っている。地域の民生委員の参加もあり住民の協力のもと行っている。回数を多く行うことで行動がスムーズに行えるようになることを管理者は承知しており、今後毎月行うことも検討し災害に備えた体制作りにも努めている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの想いや誇り・プライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている。生まれ育った環境、慣れ親しんだ文化や習慣・考え方・価値観・人格を尊重し大切にしている。	利用者の呼び方については、人生の先輩であり、名字で呼ぶことを主としている。地域がら名前でも呼ぶこともある。利用者が育った環境、習慣、考え方などに配慮した呼び方で人格の尊重に努めている。毎年、職員の理解の確認をするためにも職員が講師となり勉強会を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活歴や家族からの情報を基に、一人ひとりのコミュニケーション能力に合わせ本人の想いを引き出し自己決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れはあるが、一人ひとりの気分や体調に配慮しながら、その人のペースで過ごしていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの生活習慣や想いを大切に、季節に合わせた洋服を選んでいただいたり、ブラシで髪を整えたり髭を剃るなど、本人が満足できるような支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう一人ひとりの好みを把握し、個々に合わせた形態で提供し、メニューの説明や感想をお聞きし、会話を楽しみながら召し上がっていただいている。庭で野菜を作り食卓に乗せ収穫を楽しんでいただいている。	食事も利用者にとって楽しみであり、食べやすい形態でゆっくりでも自分のペースで食べる支援を行っている。庭には野菜を作り一緒に収穫し食卓にのせる楽しみがある。食後にはお盆をふいている姿も見られ、できることは自分の役割として行われている。今後、外食の楽しみも検討したいと伺った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分の摂取量を観察し、不十分な際には原因を探り、嚥下力や生活習慣を考慮しながら、飲み物を工夫し一日の必要量の改善に努めている。また、経管栄養者については体調観察をしながら安全に行えるよう栄養摂取や水分確保の支援に努めている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後洗面所にて口腔ケアを行っている。うがい薬の使用や歯ブラシ・スポンジブラシの使用等、個々の状態に応じ見守りまたは介助を行い、口腔内の状態観察をし清潔の保持に努めている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの状況に合わせりハビリパンツや布パンツを使用し、尿意のない方も声掛けや早目のトイレ誘導をし、トイレで排泄ができるよう支援している。</p>	<p>おむつから排泄場所はトイレへの取り組みが積極的に行われている。排便がトイレで行えた時の利用者の笑顔から排泄の自立に向けた支援の取り組みを再度検討し積極的におむつの利用も減らし布パンツ使用の取り組みも行って</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェック表により排便の有無を確認。身体の状況に合わせた水分、効果的な乳製品、繊維質の多い食事の摂取、体操やレクリエーションなど適度な運動をし、日中の活動を高め、個々に応じた予防に努めている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴表はあるが、その時の気持ちを大切に、体調や精神状態に合わせて入浴日を変更したり清拭を行う等、無理の無いよう本人の希望に添い入浴を楽しんでいただけるよう支援している。</p>	<p>週2回の入浴が基本であるリング風呂、菖蒲湯など季節の入浴を楽しむ支援も行っている。経管等の重度な方も個浴で浴槽に入る支援も今後検討していく。入浴は大事なことであり、技術向上し検討していきたい。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活習慣を大切に、体調や表情に注意しつつ、日中はなるべく活動し生活のリズムを整えるようにし、夜間の安眠に繋がるよう短時間の午睡を取るようになっている。また、空調の整備等環境面からの支援も大切にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの服用薬品カードをファイル保存し、内容・副作用について把握できるようにしている。服薬時は名前の確認を行ってから手渡し又は、介助により服薬していただき、服薬した事の確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜び・楽しみのある生活を送れるよう、歌や踊り・個々の能力に合ったレクリエーションへの参加や出来ることの見極めをし本人が嫌でない事はやっていただき張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を見ながら散歩や車でドライブを行っている。少し遠方への外出は安全に過ごせるよう事前に十分な計画を練っている。また、重度になった方も庭先のテラスに出て自然の風に触れ四季を楽しんでいただくようにしている。	年間の行事もたくさん計画されている。車を利用して近くの公園に行ったり歩いて近くのお宮に出かけたり天候に合わせて週3-4回出かけている。買い物にも一緒に出かけ本人の好みのものを購入する利用者も2-3人はいる。重度の方もテラスに出て屋外の空気に触れたり花火大会にも出かけた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況により金銭管理をホームで行っている。日常生活の中で本人が希望される時は好みの物を購入していただき自分で使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時には電話をかけた話をしていたり、大切な人への手紙のやり取りが出来るよう、申し出があればハガキを購入しいつでもポストに投函する旨を伝え、本人の気持ちを大切に配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔の保持に努め、四季の花や絵、利用者の作品、写真などを飾り、馴染みやすい空間作りをし、安全と心地よさを大切に環境作りに努めている。	玄関ガラス扉、事業所内の清掃も保持されており気持ち良い空間で過ごしている。地域のボランティアの利用で清掃も行き届きガラスも透き通って屋外が見える。フロアには利用者の目線に立った拡大した写真が飾られている	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士が集える場所作りをし、その関係が保てる空間作りをしている。また、一人を望まれる方に対しては、距離を置いてソファやテーブルを配置し、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状況に合わせてベッドや車椅子の位置を変え、安全に自立した生活を送れるよう配慮し、使い慣れた家具など馴染みの物や、思い出の写真・絵や家族からの絵葉書等を飾り家族の思いが伝わり、本人が心地よく過ごせるよう支援している。	居室は家族が本人や家族の思い出写真を飾ったり、なじみの家具を設置している。利用者の状況に合わせてポータブル設置、ベットを斜めに置き動きやすい環境を作るなど工夫が見られた。家族の思いが伝わる大きな本人の似顔絵も張られ家族の温かい思いが伝わる居室もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を活かし、どうしたら本人の力でやっていただけるのか、分かりやすくするためにはどうすればよいかを工夫し、できるだけ混乱しないよう自立支援に繋げている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	見やすいところに掲示し、職員全員で共有し意義を理解しケアの実践に繋げている。		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	地域の催し物や会合・消防訓練等に参加し地域との交流を深めている。また、ボランティアの方々に来所していただく回数も増えている。学校からの職場体験やボランティアの受け入れを通じ地域の一員として日常的に交流している。		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	職場体験の受け入れや施設見学を通じ、認知症についての理解を深めていただけるようにしている。		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	定期的に運営会議を開催し、状況を報告し意見を頂きサービスの向上に繋げるようにしている。		
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	運営推進会議に包括支援センター・介護保険係の方に出席していただき、密に連絡を取り入居者の安全・サービスの向上に向け、指導・助言を頂き協力関係を築くよう取り組んでいる。また、ケアマネが地域ケア会議・研修会へ積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>常に見守り・所在確認を行い、その時々々の状況を細かく把握することにより、安全に配慮しながら鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。また、身体拘束についての勉強会を開催し職員全員が理解するよう努めている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての講演会への参加、施設内での勉強会を開催し知識を身につけ、ミーティングの際には再確認を行い職員一人ひとりが注意を払い防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在「成年後見制度」を利用している方がいらっしゃる。制度についての勉強会を実施し、職員は知識・理解を深め必要に応じ活用できるよう支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時の契約の際は家族の要望・不安な点を伺い、様々な状況への対応・対処・起こりうるリスク等説明し同意を得ている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置、ご家族からの要望・意見を柔軟に受け止め、職員はご家族へ施設での様子を手紙にて伝え、運営会議などを通じ公表しアドバイスを頂いたり運営に反映させている。</p>		
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の職員会議や毎日のミーティングの中で職員が気軽に意見・提案を出せる時間・場を設け、話し合い確認し、その出された意見や提案を参考にしながら心地よい環境・良いケアに反映させている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務内容・任用等の条件・賃金体系を確立し、職員が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での勉強会・外部研修への参加や介護福祉士資格・介護支援専門員資格取得の機会を確保し働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や講演会に参加したり、他の施設の見学を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、心身の状態を把握し、本人が困っていること・不安・要望に耳を傾け思いを受容し安心が確保できる関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯を時間をかけてお聴きし、ご家族の状況を理解し思いを受け止め、信頼関係を築くことの大切さを日々感じながら支援に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況を確認し、必要としている支援を見極め適切なサービスに繋げる等、状況の改善に向けた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識ではなく、共に笑い感動し、思いを受け止めお互いが協働しながら穏やかに暮らせるよう支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の考え、思いを共有しながら家族と一緒に本人を支えていける体制を整えている。一ヶ月の様子を手紙でお伝えしており、電話や面会時に情報交換をし、本人を支えるための協力関係を築くよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方の来所により今までの関係が途切れることの無いよう定期的に連絡をし支援している。自宅に帰りたいとの訴えが聞かれた際は家にお連れし、本人の気持ち・思い出の場所・人と人との関係が途切れないよう常に気を配り支援に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他のご利用者様との関係を観察し、関わり合いを大切に、軽作業やレクリエーションを通じ、孤立しないよう寄り添い合えるような見守り支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても互いの関係を大切に、情報提供や相談、支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当チームを置くことにより、ご利用者様の思いや希望、その人らしい生活、どのようにしたら安心して暮らしていただくことができるのか、行動・表情・生活歴などからその人を理解し受け止め日々の眩きにも耳を傾け意向の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴・会話・行動・なじみの暮らし方・家族からの情報を基に、これまでのサービス経過を踏まえ、安心した生活が営めるよう生活環境の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの尊厳を大切にし、心身の状態を観察し、その人の出来ることや得意なことを見つけ、その人らしい生活を送ることが出来るよう環境への配慮・現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で思いを受け止め、家族との連絡、カンファレンス等で意見・アイデアを出し合い情報を共有し、観察を行い現状に即した介護計画を作成し、定期的なモニタリングを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別介護記録や職員連絡ノートに記入し、また朝の申し送りの際に再確認を行い、職員間での情報を共有しながら実践。それを基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々場面・ニーズに対し、家族やかかりつけ医と相談しながら柔軟に対応し支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々にボランティアに訪訪していただいたり、神社・公園・花の名所等への外出等、心身の状況に応じて安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人のかかりつけ医との連携、家族との相談・希望等を大切に早期対応。緊急時には訪問看護や協力医の往診。また、家族が定期的に受診に連れて行き適切に診療を受けることが出来ており、安心安全が保たれている。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職は日常の関わりの中での気付き・異常の早期発見に努め、ケース記録・連絡ノートを活用し、介護職から看護職へ細かな情報も確実・迅速に伝わる体制が整えられている。また、訪問看護による定期的な観察と緊急時の対応により適切な看護が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために、入院時には医療機関への情報提供を行い、また、家族とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に対する対応指針を定め説明している。状態の変化に対しては早期に家族と終末期の在り方について話し合い、重度化した際はかかりつけ医とも連絡を取り合い家族の意向に応じて方針を明確にし、終末期をどこで迎えるか等都度確認し情報を共有し支援にあたっている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故に備え、応急手当・初期対応の訓練を定期的に行っており、事故が無いよう見守り、介護支援に努めている。緊急時の対応マニュアルが作成され掲示。連絡網は各自に配布されている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には地区民生委員や家族代表の方にも参加していただき、全職員参加にて実施し緊急時の対応を身につけ、地域との協力体制を整えている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの想いや誇り・プライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている。生まれ育った環境、慣れ親しんだ文化や習慣・考え方・価値観・人格を尊重し大切にしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活暦や家族からの情報を基に、一人ひとりのコミュニケーション能力に合わせ本人の想いを引き出し自己決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れはあるが、一人ひとりの気分や体調に配慮しながら、その人のペースで過ごしていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの生活習慣や想いを大切に、季節に合わせた洋服を選んでいただいたり、ブラシで髪を整えたり髭を剃るなど、本人が満足できるような支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう一人ひとりの好みを把握し、個々に合わせた形態で提供し、メニューの説明や感想をお聞きし、会話を楽しみながら召し上がっていただいている。庭で野菜を作り食卓に乗せ収穫を楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分の摂取量を観察し、不十分な際には原因を探り、嚥下力や生活習慣を考慮しながら、飲み物を工夫し一日の必要量の改善に努めている。また、経管栄養者については体調観察をしながら安全に行えるよう栄養摂取や水分確保の支援に努めている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後洗面所にて口腔ケアを行っている。うがい薬の使用や歯ブラシ・スポンジブラシの使用等、個々の状態に応じ見守りまたは介助を行い、口腔内の状態観察をし清潔の保持に努めている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの状況に合わせりハビリパンツや布パンツを使用し、尿意のない方も声掛けや早目のトイレ誘導をし、トイレで排泄ができるよう支援している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェック表により排便の有無を確認。身体状況に合わせた水分、効果的な乳製品、繊維質の多い食事の摂取、体操やレクリエーションなど適度な運動をし、日中の活動を高め、個々に応じた予防に努めている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴表はあるが、その時の気持ちを大切に、体調や精神状態に合わせて入浴日を変更したり清拭を行う等、無理の無いよう本人の希望に添い入浴を楽しんでいただけるよう支援している。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活習慣を大切に、体調や表情に注意しつつ、日中はなるべく活動し生活のリズムを整えるようにし、夜間の安眠に繋がるよう短時間の午睡を取るようになっている。また、空調の整備等環境面からの支援も大切にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの服用薬品カードをファイル保存し、内容・副作用について把握できるようにしている。服薬時は名前の確認を行ってから手渡し又は、介助により服薬していただき、服薬した事の確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜び・楽しみのある生活を送れるよう、歌や踊り・個々の能力に合ったレクリエーションへの参加や出来ることの見極めをし本人が嫌でない事はやっていただき張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候や体調を見ながら散歩や車でのドライブを行っている。少し遠方への外出は安全に過ごせるよう事前に充分な計画を練っている。また、重度になった方も庭先のテラスや戸外に出て自然の風に触れ四季を楽しんでいただくようしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況により金銭管理をホームで行っている。日常生活の中で本人が希望される時は好みの物を購入していただき自分で使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時には電話をかけ話をし、大切人への手紙のやり取りが出来るよう、申し出があればハガキを購入しいつでもポストに投函する旨を伝え、本人の気持ちを大切に配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔の保持に努め、四季の花や絵、利用者の作品。写真などを飾り、馴染みやすい空間作りをし、安全と心地よさを大切に環境作りに努めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士が集える場所作りをし、その関係が保てる空間作りをしている。また、一人を望まれる方に対しては、距離を置いてソファやテーブルを配置し、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状況に合わせてベッドや車椅子の位置を変え、安全に自立した生活を送れるよう配慮し、使い慣れた家具など馴染みの物や、思い出の写真・絵や家族からの絵葉書等を飾り家族の思いが伝わり、本人が心地よく過ごせるよう支援している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を活かし、どうしたら本人の力でやっていただけるのか、分かりやすくするためにはどうすればよいかを工夫し、できるだけ混乱しないよう自立支援に繋げている。		

目標達成計画

作成日：平成 26 年 12 月 25 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	接遇に関して、不適切な言葉遣いや態度が見られることがある。	相手の尊厳を傷つけない丁寧な言葉遣いを基本とし、目線を合わせて話しかけることができる。	・人事考課制度を活用し、不適切な場面があった時は、互いに注意していく。 ・日頃からリーダーを中心に、スタッフの意識を高めるよう声かけしていく。	12ヶ月
2	27	記録の書き方が統一されていない。また、何を記録に残さなければいけないかの把握ができておらず、記録に残っていないことが多い。	状態の変化を把握し、ポイントをつかんだ記録が書けるようになる。	・記録の書き方・重要性についての内部研修を定期的開催し、その時々で重要なポイントを申し送りノートに記載する他、朝礼時に口頭で指示し確認する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。